



横浜市立一本松小学校

11月号

学校だより

横浜市立一本松小学校

校長 高桑 透

令和6年10月31日



『感動を呼ぶ子どもたちの姿』

副校長 山田 由紀子

長かった暑い季節も終わり、すっかり街も秋めいてきました。朝夕の冷たい空気に季節が移り変わったことを感じます。学校の桜の葉も少しずつ紅葉し、秋、そして冬の訪れを告げているようです。

10月26日(土)に行われた一本松オリンピック(運動会)では、今年のテーマ「一人一人全力で燃え上がれ!一本松」の通り、子どもたちのたくさんの笑顔と熱意であふれていました。その姿はどの子も本当に眩しく輝いていました。

「保護者の方の前で一番かっこいい姿を見せたい」、「自分が今まで頑張ってきたこと、できるようになったことを見てほしい」そんな思いを胸に頑張る、子どもたちの自信に満ちた姿が本当に素敵でした。

上級生として一本松の伝統を守り、さらに新たな伝統を創り上げていくその姿を、下級生に、地域の方に、そして保護者の方に見てもらうのだと一生懸命頑張ってきた5・6年生。ソーラン節のはじめの掛け声と共に一斉に腰を低く構えたその姿から、子どもたちの本気を感じました。一人ひとりの子どもたちが本気で取り組む姿。皆で最高のものを作り上げようとする想い。それが形になったその瞬間を目の当たりにし、目頭が熱くなりました。

しかし、オリンピックの感動はその日その瞬間だけから生まれるものではありません。私の中で子どもたちのその姿に重なって見えたものがありました。それは、この瞬間に向け、ずっと準備を重ねてきた教職員の姿でした。

夏休みの間から演技や競技の構成を考え、相談する姿。夜遅くに図書室から聞こえてくるダンスの曲。子どもたちに寄り添い目指す姿に向かい粘り強く指導する様子。子どもたちが頑張る姿を見て心から喜び合う声。環境を整えるために、毎日暑い中で作業する姿。それら一つひとつの姿が重なり、より大きな感動となったのでした。

そしてもちろん、このオリンピックは学校だけの力で成功したわけではありません。この日のために尽力してくださったたくさんの方々のお力があってこそのものでした。

子どもたちが整った環境で活動できるようにと暑い中草刈りをしてくださった方々。当日のスムーズな運営のために協力してくださったサポーター、学援隊の皆様。そして何より、子どもたちの日々の頑張りを認め、励まし、支えてくださった保護者の皆様。

たくさんの方の温かな想いで、一本松オリンピックは、成功をおさめることができたのだと感じます。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

人と人とのつながりが薄くなってきたといわれる昨今ですが、人の心を動かし、感動させるものも、やはり、人の思いや姿なのだと感じた一日でした。

子どもたちはこのオリンピックの成功を糧に、より大きく自身を成長させながら新たな毎日を送っていくことでしょう。次は一本まつりです。また新たな感動の1ページが創られることを楽しみに、教職員一同子どもたちを支援してまいります。